

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会  
VHF/UHF帯電波有効利用作業班  
放送グループ（第3回）議事要旨（案）

1 日時

平成19年4月12日（木）10時00分～12時00分

2 場所

総務省1101会議室

3 出席者（敬称略）

（総務省）大野周波数調整官、小泉周波数調整官

（構成員）黒田放送G代表(NHK)、増田マルチメディア放送G代表(MJP)、  
杉田アナログ放送G代表(JCBA)、小川デジタルラジオ放送Gサブ  
(DRP)、放送G構成員

4 議題

(1) 放送グループに課せられた課題について

ア 前回までのサマリー

イ VHFローバンドの取り扱いについて

ウ 周波数位置について

エ ガードバンドの考え方

(2) その他

5 議事要旨（敬称省略）

(1) 前回議事録（資料2022-VU作-放 ad3-1）については、読上げを省略し、気づいた点がある場合は、おってコメントすることとした。

(2) 前回までのサマリーについて

資料2022-VU作-放 ad3-2「今後の検討の進め方（案）等」及び ad3-4「前回までのサマリー」に基づき、黒田放送グループ代表から説明があった。

(3) VHFローバンドの取り扱いについて、

ア 松本構成員代理から、資料2022-VU作-放 ad3-5「ご提案資料」について、以下の発言があった。

① 本資料は、前回作業班における発言の裏付け資料であり説明は省略する。

② デジタルラジオをはじめとして VHF ローバンドでも良いあるいはローバンドの方がむしろ望ましいケースの方もあるという企業が相当数あることから、VHF ハイバンドとローバンドのバランスが崩れるのではないかという懸念は解消された。

イ 小川デジタルラジオ放送Gサブから、資料 2022-VU 作-放 ad3-6「放送グループ検討課題に対する見解」のスライド2について、説明があった。

審議の結果、ローバンドについては、メリットとデメリットがあり、ローバンドでも事業化が可能だとする事業者もあることから、放送グループとしてローバンドを含む 35MHz を希望することになった。ただし、自営通信グループとの議論の中で、自営通信グループがローバンドを希望する場合や周波数有効利用上メリットがあることが分かった場合は、今の大枠にこだわらずに再度考えることになった。

#### (4) 周波数位置について

小川デジタルラジオ放送Gサブから、VHF7ch の取扱い（資料 2022-VU 作-放 ad3-6「放送グループ検討課題に対する見解」スライド3）について、説明があった。審議の結果、周波数有効利用の観点から周波数配置を決めること、また、7 c h が放送帯域として含まない場合には移行措置を講じてほしい旨要請することとなった。

廣野 周波数有効利用の観点でまずは整理し、その上で、ユーザの移行措置が必要だという意味か。

小川 VHF ハイバンドを希望するが、移行することになったとしてもある程度の暫定期間が必要という意味。全体として周波数有効利用を図るという土俵の観点は変わらない。

大野 これを委員会報告の答申の一部として周波数の使い方に書いてほしいというのか、単に WG までの要望の話として書いてほしいだけなのか。要望の話であれば、この委員会できなくとも別の場で要望することはできる。

黒田 2011年7月24日まで放送に使っていて、25日から放送に使ってはダメになってしまうのを懸念しているという趣旨で、書き方の問題だと思う。まずは、自営通信グループの理解を得るようにしたい。優先して考えるべきは VHF 全体の周波数有効利用で、その結果として 7 c h が放送用帯域に含まれなくなった場合には、受信者保護のため一定期間だけ放送帯域として暫定利用させていただき配慮をしてほしいということを VHF-G に提案し、上に上げていきたい。

佐々木 7 c h が確保できない場合は、移行措置として相当期間を担保してほしい。期間の言及は避けてほしい。

黒田 「10年間確保しろ。」は多分通らないので、「一定期間移行期間を確保してほしい。」ということに留めざるを得ないと思う。

#### (5) ガードバンドの考え方

佐々木 自営通信グループは、共同利用で OFDM 方式となっているが、クリティカルなケースを考えるとガードバンドはいくらあっても足りない。偏波面を変える等ガードバンドをある程度減らす方法をお互いに協調して検討したらどうか。

黒田 自営通信の場合、発信源が動く上、受信点も動く、また放送も受信点が変わるので、クリティカルな条件を想定すると共用はかなり難しくなる。その発生頻度を考えると、本当にガードバンドが沢山必要なのかと思う。方式や利用頻度など具体的な条件が決まらなると難しいと思う。ガードバンドを決める上で考慮すべき事項を纏めざるを得ないように思うが、いかがか。

大野 諮問された内容は、黒田代表が話されたことであるが、その結果どのように使えるのかイメージを持ってもらうため、周波数軸上でどのように使うのか示す必要があると思っている。実周波数軸上でどのように使えるのか無視して書くことはできないので、自営通信グループと詰めた上で、書きぶりについては今後の相談になる。

黒田 どういうぐらいまでなら共用できるのか、ある程度条件を先に詰めた方が良いと思う。安心安全と自営通信グループは言うが、災害の時に放送で送り届ける際に付近で自営通信が使っていると放送の受信もできなくなる。それでは何のための放送だか分からなくなるので、一番の輻輳時期は想定されるものの、運用上の調整もあり得ると思う。そのためには、どの程度離すのか検討することも必要である。自営通信グループの材料が纏まっていないので、VHF 帯共用検討グループに対しては留意事項に留めたい。

松本 あまりに理想を追求してガードバンドのお化けにならないよう歯止めすべきである。安心安全は自営通信グループの旗印になっているが、安心安全のためには放送というものは極めて重要なツールである。大所高所にたった議論を一度する必要がある。

黒田 委員会でも、安心安全において放送が役割を果たしていることは指摘しており、今後も触れていきたい。

#### (6) 今後のスケジュール

黒田代表から、放 ad3-3 に基づき説明があった。本日の放送グループ会合で出した意見を含め取纏め案を作成し、メールで構成員の方に照会の上、VHF グループに出していきたい旨説明があり、了承された。

【配布資料】

資料 2022-VU 作-放 ad3-1	放送グループ第2回議事要旨（案）	（放送G代表）
資料 2022-VU 作-放 ad3-2	今後の検討の進め方（案）等	（放送G代表）
資料 2022-VU 作-放 ad3-3	今後の検討スケジュール（案）	（放送G代表）
資料 2022-VU 作-放 ad3-4	前回までのサマリー	（放送G代表）
資料 2022-VU 作-放 ad3-5	ご提案資料	（モバイルメディア 企画）
資料 2022-VU 作-放 ad3-6	放送グループ検討課題に対する見解	（デジタルラジオFM コミュニティー放送）

以上